

NEWS RELEASE

## 協調安全による事故の低減と生産性の両立に向けて Safety2.0 適合審査登録制度への登録・申請が加速！

一般社団法人セーフティグローバル推進機構(IGSAP・会長/向殿政男)は、人とモノ、及びこれを取巻く環境において、情報通信技術(ICT)を活用し、不安全事故の低減と生産性の向上を両立させる、協調安全(Safety 2.0)を社会に普及させることを目的に、「Safety 2.0 適合審査登録制度」創設し2018年2月より運用を開始し、3月2日時点で7件が適合審査に合格、登録されました。また、現在多くの申請案件や問い合わせが様々な分野から寄せられており、今後加速度的な増加が予想されます。

□本制度は、IGSAPが制定したSafety 2.0に対する技術的要件を定めた<Safety 2.0に関する一般要求事項>に基づいて審査を行い、適合と判定した対象及び組織をIGSAPが登録公表するとともに、適合証明書を発行し、適合対象へのSafety 2.0 適合マークの表示許可を与える制度です。



「Safety2.0 適合証明書」や「Safety2.0 適合マーク」は、協調安全(Safety2.0)に適合した製品やシステム、プロセスを社会やユーザーに提供する際、労働安全などに対する安全・安心の向上を示す証として発行されます。

□ Safety 2.0 適合審査は、適合の到達レベルにより3区分に分類され、「レベル 1」はシステム等の仕様の適合性を、「レベル 2」は運用面・要員能力の適合性を、「レベル3」は、それに加えた改善や成果を評価することにより行われます。

注 1)「レベル1」「レベル2」「レベル3」の区分の詳細は参考資料をご覧ください。

□ Safety2.0 適合審査登録制度「7 件の合格内容紹介」

- ① 株式会社 NIPPO の「自動停止装置を備えたタイヤローラ、ホイールローダ」が適合審査に合格
  - \*タイヤローラの後方に発生させた磁界内に IC タグを保有した現場従事者が誤進入した場合、タイヤローラを緊急停止させるシステム
- ② ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社の生産設備に導入する「協働ロボット及び静電容量式 ANSHIN Sensor を使用したロボットシステム」が適合審査に合格
- ③ IDEC 株式会社の「ウェアラブルストップスイッチを使用したアシスト E-STOP コンポーネント」が適合審査に合格
  - \*人体に装着した無線で作動するウェアラブルスイッチにより、人が認識した危険情報を、即時にアシスト E-STOP(非常停止装置)に伝え、機械を停止させるシステム
- ④ 清水建設株式会社の「滝室坂トンネル西工事における重機接触災害リスク低減システム」が適合審査に合格
  - \*切羽での土砂の搬出(ずり出し)作業で、作業者と重機の位置情報管理、警告照明機器制御、重機周囲監視を連携させることにより、重機との接触リスク低減を図るシステム
- ⑤ IDEC 株式会社の「トンネル内作業員および車両の位置検知システム」が適合審査に合格
  - \*工事作業員、車両にセットされた ExTx(タグ)の電波から EXBeacon で位置を検知し危険エリアへの侵入に対し所定の警告を行うことで災害の発生を未然に防止するシステム
- ⑥ アズミー株式会社の「特殊車両用安全 AI カメラシステム」が適合審査に合格
  - \*重機の左右・後方部に装着した AI カメラにより人の接近を正確に検知し、オペレータに対し警告を発して、重機起動時に人への接触リスクを防止するシステム
- ⑦ IDEC 株式会社の「高視認性 LED による重機等の工事車両/重機等の動作表示システム」が適合審査に合格
  - \*人と車両の共存領域において、車両に装着したシーケンシャルライトにより人に自律的に走行・旋回動作情報を明確に表示すると共に、オペレータ降車時の大型回転灯による動作表示システム

□ Safety 2.0 適合審査登録制度は、一般社団法人セーフティグローバル推進機構(IGSAP)がスキームオーナーとして制度設計を行い、審査業務等の制度運営は、日本認証株式会社が行っています。

【参考資料】注1) Safety2.0 適合のレベル区分

	要件	技術	要員	仕組み・マネジメント
レベル3	情報の相互共有を技術的方策により実現しており、これを適用するための要員や仕組み、マネジメントシステムを活用し、継続的に、高度に安全化を図り、実績につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク関連情報を受けて自律的な制御により安全側に導いている。</li> <li>・リスク関連情報(危険・安全情報)をモニタリングし、発信している。</li> <li>・人,モノ,環境等の構成要素を情報でつないで情報共有を行っている。</li> </ul>	レベル2に加え <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術的方策、仕組み、マネジメントシステムに対して熟知すると共に、継続した改善と高度化を図れる要員が配備されている。</li> </ul>	レベル2に加え <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術的方策、要員による安全化が継続した改善と高度化を図れる仕組みとマネジメントシステムがあり、運用されている。</li> </ul>
レベル2	情報の相互共有を技術的方策により実現しており、これを適用するための要員や仕組み、マネジメントシステム等により安全化を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人,モノ,環境等の構成要素を情報でつないで情報共有を行っている。</li> </ul>	レベル1に加え <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術的方策を熟知すると共に、運用するための仕組みやマネジメントシステムに関する理解し運用できる要員が配備されている。</li> </ul>	レベル1に加え <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術的方策、要員による安全化が円滑に実施できる仕組みとマネジメントシステムがあり、運用されている。</li> </ul>
レベル1	情報共有を技術的方策により実現しており、これを適用するために最低限必要な要員、ルールや管理的手段により安全化を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人,モノ,環境等の構成要素を情報でつないで情報共有を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術的方策を理解し、これを適用するために必要な要員が配備されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術的方策、要員により安全化を図るための必要最小限としての仕組みがあり、運用されている。</li> </ul>
適用	稼働・運用サイト	適用	適用	適用
	コンポーネント/システム	適用	適用しない	適用しない

\*この適合証明書は、不安全災害の未然防止手段のひとつとして協調安全を実現する技術的要件及びその継続的な運用に対し公布するものであって、これが無災害を保証するものではありません。

◆問い合わせ先 セーフティグローバル推進機構 TEL06-6399-1211 大阪市淀川区西宮原 2-7-5

□ 向殿政男 経歴

一般社団法人セーフティグローバル推進機構 会長

明治大学名誉教授(工学博士)

1970年明治大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程修了。

1978年明治大学工学部教授、

1989年明治大学理工学部教授を経て、明治大学名誉教授。

経済産業省製品安全部会長、国土交通省昇降機等事故調査部会長等を歴任

2005年経済産業大臣表彰受賞、

2006年厚生労働大臣表彰受賞、

2015年安全功労者内閣総理大臣表彰受賞。

2019年国土交通大臣表彰

日本の安全学のエキスパート。

専門領域

安全学(機械安全、労働安全、製品安全、消費者安全)、

論理学(多値論理、フェールセーフ論理、ファジィ論理)、

情報学(ファジィ理論、人工知能、情報教育)